

北条地区タウンミーティング(要約)

テーマ：北条地区のまちづくりについて

平成28年10月28日(金曜日)

【市長】 皆さんこんばんは。今日は金曜日の夜で、お仕事やご家庭のことで何かとお忙しかったのではないかなと思いますが、このように多くの方にお集まりいただき、本当にありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたりまして、北条地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。私が市長に就任させていただいたのは平成22年11月ですが、そのときからタウンミーティングを開始させていただいています。どちらが楽かという、市役所で皆さんがお越しになるのを待っているほうが楽です。でも果たしてそれでいいのでしょうか。松山市内には旧松山市、旧中島町、旧北条市あわせて41地区ありますが、それぞれの地区に魅力があって、逆に課題もあります。現地現場を大切にしようという思いで我々のほうから出向かせていただいて、皆さんの声を聞かせていただくということでタウンミーティングを始めました。この松山市版タウンミーティングは「聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしない」タウンミーティングです。皆さんからご質問やご意見をいただきまして、できるだけこの場でお答えをして帰りますけれども、中には国と関係する案件、県と関係する案件、財政的によく考えなければならないものもあります。そういったものをいいかげんな返事をして帰るわけにはいけませんので、1カ月をめぐり、必ず地区に返事を返すというのが「やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしない」松山市版のタウンミーティングの特徴です。市長の任期は1期4年の48カ月ですから、41地区を1カ月に1回のペースで当初は回ろうと思っていましたが、おかげさまで好評になり41地区を2年2カ月で一巡りしました。1期目4年の中でもう一巡りしようということで、結局1期4年の間に地区別のタウンミーティングを二巡りすることができました。おかげさまで2期目に入らせていただいて、2期目のタウンミーティングは、この地区別のタウンミーティングに加えて世代別のタウンミーティングや職業別のタウンミーティングをしています。まず、世代別では、子育て世代の方やシルバー世代の方々に集まっていただいて、声を聞かせてもらうタウンミーティングをさせていただきました。また、職業別のタウンミーティングでは、農業関係の方や商店街関係の方々に集まっていただいて開催しました。色んな角度から、皆さんの現場の生の声を聞かせていただくというのがこのタウンミーティングの特徴です。今日は90分

間ですが、肩ひじ張って緊張すると90分間しんどくなりますから、あまり緊張なさらずに、この北条が良くなるための有意義な意見交換ができればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願いします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨について、市長からご説明いたします。

【市長】 今日のテーマは、まちづくり協議会さんともご相談させていただく中で、「若い世代のまちづくりへの参加」と「地域の賑わいづくり」とさせていただきました。もちろんそれ以外のご意見をいただいても構いませんので、遠慮なく言っていただけたらと思います。近年、ご近所さんのつながり、地域コミュニティが薄くなっているとよくいわれます。つながりが薄くなると、治安や防災の面で不安が高まります。先日お祭りがありましたけれども、地区の文化や伝統を継承していくことも、地区のつながりが薄くなると難しくなると思います。ここ北条地区では、まちづくり協議会が平成22年6月に市内で7番目に結成されました。さまざまな組織が垣根を越えて、「かざはや楽市」や「くらコン」を開催され、またフェイスブックを活用した積極的な情報発信など、先進的な取り組みが進められていますことを、大変心強く感じています。一層若い世代の方にまちづくりに積極的に参加していただいて、さまざまな方と交流をすることができれば、まちづくりの輪がもっと広がるのではないかと思います。風早レトロタウン構想の中でも「鹿島・駅前通り周辺の活性化」を掲げて、さまざまな取り組みを行っていますが、当然、地元の方々のご協力が必要不可欠で、市役所でやれることには限りがありますし、地区の魅力を一番よく知っているのは地元の方々です。松山市が中心になって各41地区のまちづくりをしてしまうと、金太郎飴のようなまちづくりになってしまいますので、各地区の魅力を生かしていくことが大事で、そういったことも今日意見交換ができればと思います。さて、これまでこの北条地区では2回タウンミーティングをさせていただいていますが、1回目は平成23年2月、2回目が平成25年8月です。そのタウンミーティングでたくさんのご意見をいただいていますので、その代表的な例をご説明させていただきます。過去2回のタウンミーティングで、鹿島の活性化について、たくさんのご要望をいただきました。鹿島への熱い思いを肌で感じました。北条鹿島博物展示館は、昭和55年の開館から時がかなり経っていましたので、平成26年3月に、愛称「かしまーる」としてリニューアルオープンをしました。1階が多目的室として子どもたちが遊べる遊具や絵本などを揃えて、無料の休憩所としても来館者のご好評をいただいています。2階の博物展示館は、北条地域の伝統や歴史を伝える展示をはじめ、マンモスの骨

などに直接触れることができる珍しい展示物も備えています。さらに、活性化につながる方策の1つとして、鹿島一周の遊覧船メニューの充実を図りました。皆さんご存知のように鹿島は土砂の崩壊が進んでいまして、私も実家が北条の河野地区にありますから鹿島に愛着がありますが、昔は一周できていましたから一周できるようにしたいんですけれども、完全に土砂が崩落するのを防ぐためには5億円近いお金がかかってしまいます。しかも、島の形状も自然のものではなくコンクリートで固めることが想定されますので、それではということで遊覧船のメニューの充実を図りました。「恋人の聖地サテライト」に認定をされましたので、平成26年8月から鹿島を一周する周遊船のコースを延長して、夫婦岩を巡るコースを就航させています。ただのアナウンスではおもしろみに欠けるので、魅力的にということで、松山出身のお笑い芸人『友近』さんによるアナウンスで来訪者へのおもてなしを行うなど、鹿島周遊を満喫できるように取り組んでいます。鹿島は海水浴もお楽しみいただけますが、いろいろなイベントなどを開催した結果、平成22年は3万1千人の方がお越しになっていましたが、平成26年度は5万1千人の方がお越しになっています。平成27年度は5万6千人の方がお越しになっていますから、年々お客さんが増えている状況です。これからも継続的に皆さんと一緒に磨き上げていき、それをしっかりと松山市もサポートしていきたいと思っています。ほかにもタウンミーティングでは、松山市の北部に児童館を建設してほしいというご意見をいただいていた。ご存知の方も多いと思いますが、夏休みまでに間に合わせようと今年の7月に文化の森にある保健センター北条分室を改修して、児童センターと保健センターの複合施設として北条児童センターがオープンしました。児童館という名前も聞かと思いますが、北条は児童センターで、どちらが大きいかというと児童センターです。建設に際しては、地元の方々に熱心に議論に入っただき、本当にありがとうございました。児童センターは、乳幼児だけでなく高校生まで楽しめる工夫として、屋内には演奏ができる防音設備を施した音楽室を設けています。ご近所を気にすることなく、遠慮なく音楽室で演奏を楽しめます。また、屋外には市内の児童館では初となるスリー・オン・スリーバスケットができる専用コートを設けました。ぜひともご利用いただけたらと思っています。おかげさまで多くの方で賑わっています。もう1つは、道路の拡張です。今まさに目に見えるかたちで進んでいるのが、タウンミーティングで北条小学校の通学路の安全対策の要望が出されたハトマートから市道北条立岩線まで約700m区間の道路拡張工事です。2車線の車道と片側歩道の道路幅9.5mの整備を行っています。平成24年度から国の補助金

事業を活用して工事を進め、平成30年度の完成を予定しています。子どもたちがより安全に通学できる環境が整います。以上、代表的なタウンミーティングの意見対応状況のご説明でした。それでは、それぞれの担当の自己紹介をします。

【市民部長】 このタウンミーティングを所管しています市民部長の唐崎と申します。市民部ではこのタウンミーティングのほかに、住民主体や安全安心のまちづくりを所管している市民参画まちづくり課、人権啓発課、市民相談課、市民課、支所といった市民の皆さんに直接つながる業務をさせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

【教育委員会事務局次長】 教育委員会事務局次長の家串と申します。学校教育や公民館活動などの社会教育を担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

【坂の上の雲まちづくり担当課長】 坂の上の雲まちづくりチームで北条地域の振興を担当させていただいています吉田でございます。日ごろから、まちづくり協議会さんをはじめ、いろいろな団体にご協力をいただきながら北条地区の活性化に努めていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【地域経済課長】 地域経済課の宇野でございます。地域経済課は産業経済部に属してございまして、農業振興や商店街の活性化、観光での産業経済の活性化に取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

【都市・交通計画課長】 都市整備部都市・交通計画課の石井と申します。都市整備部では、主に社会基盤の道路や舗装の維持管理、事業者の鉄道の駅のバリアフリーの支援、路線バスの維持のための支援などを行っています。よろしくお願いいたします。

【保健福祉部副部長】 保健福祉部副部長の野本と申します。保健福祉部は国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、福祉関係では高齢者や障がい者、生活にお困りの方などの福祉、保健所では皆さんの健康づくりや予防接種、動物愛護などを担当しています。本日はよろしくお願いいたします。

【男性】 市長にはいつもお世話になっています。私の住んでいるところは北条港に沿ったところですが、昔からたばこのポイ捨てが多く、釣り客や地元の方が自転車で通りすがりにたばこを捨てるのが目立ちます。私も朝方に道路掃除をしています。結構たばこの吸い殻が落ちています。松山市にたばこのポイ捨て禁止区域があると思うのですが、ああいうものはどうすれば認めていただけるのでしょうか。

【市長】 いいご質問をいただきました。確かに思い浮かべてみると港の

あたりであるかもしれないと思いました。松山市でも各地で清掃作業が行われていて、私もできるだけ参加させていただくようにしています。たばこのフィルターは自然に還らないそうで、ごみを拾うクリーン活動では、たばこのフィルターのごみはすごく目立ちます。

【市民部長】 たばこのポイ捨ての問題ですが、松山市には条例が2つありまして、たばこのポイ捨ては環境部所管の「松山のまちをみんなで美しくする条例」が平成14年にでき、たばこに限らずポイ捨てを禁止しています。それから平成21年に「松山市歩きたばこ等の防止に関する条例」ができ、火のついたたばこが歩いていると子どもさんの目に当たるなど非常に危険なので、人のいるところではたばこを吸うのをやめましょうという条例です。その両条例とも、言葉は違いますが重点的に禁止する区域を設けています。歩きたばこでは、観光客や人が多く集まる道後周辺、堀之内周辺、市駅、JR松山駅周辺を重点的な地域として禁止しています。それ以外の区域は努力義務として条例を守るようにしましょうとしています。状況によってそのエリアを見直すことは考えられることですが、現在は人の多いところという観点で設定していますので、今後、港の周辺が多いということでしたら、捨てられている実績も確認させていただきます。こちらは環境部の「松山のまちをみんなで美しくする条例」になるかと思いますが、担当で検討させていただきたいと思います。

【市長】 おかげさまで鹿島に来られる方が増えてきていますので、流れとすると北条駅前から鹿島へのあのルートですね。大方は車で来られているんじゃないかと思いますが、中にはJRで来られている方もいらっしゃるでしょうし、そこでイベントが行われているわけですから、比較的客人が多いところと認定することもできようかと思います。何でもそうですが、国がつくると法律で、県や市がつくると条例とあって、法律と一緒にルールですから一定しぼるかたちになります。わかりやすくいうと、通学路でここは時速30kmに抑えましょうというゾーンを設定することになりますが、それは地区の皆さんに30km以下というのを守っていただくことになります。1つの方法としては北条地区のまちづくり協議会さんでここは禁止区域に認定をしてくださいという声が上がってくるのも1つの方法ではないかと思います。私たちも実態を見てみたいと思いますし、皆さんからそういうご要望がありましたら、お声をいただければと思います。

【男性】 北本町の区長をしています。若い世代のまちづくりへの参加ということが本日のテーマですが、ここにもかなりの区長さんがおられると

思います。どの町もまちを出ていく若い方が非常に多いと思います。高校を卒業して大学に行くにあたり、地元では将来的な展望が見えないということで外に出て、そのまま外で就職してしまう。親御さんも本来なら家に残ってほしいと思いますが、地元では将来が見えないので、子どもが外に出ていくのを覚悟の上で子どもを外に出しています。なぜ、そういう状態になるかは、特に旧松山市はそうでもないかもしれませんが、北条は働く場所が非常に少ないです。もう少し子どもたちに将来の見えるかたちとして、大手の企業さんを誘致してくることをしていただかないと、民間ではなかなかそういうところは回っていかないと思います。三浦工業さんは新規工場が2棟建つかたちで進めています。地元雇用をもっと進めてもらうとか、地元が楽しいなという子どもたちが多くいても出ていかざるを得ない状況に歯止めをかけるよう、行政としても考えていただかないと、町からどんどん若い人がいなくなってしまうと思います。私の町は75軒ほどいますが、高齢の方の人数のほうが多いくらいです。これから北条についてはどこの町も一緒だと思いますが、区長制度を維持していくのが非常に困難になっていくと思います。その辺についてお話を伺いたいです。

【地域経済課長】 ご質問ありがとうございます。地域経済課です。おっしゃるとおりでございます。松山市全体の話をしていただきますと、松山市は市長自らがいろいろとトップセールスをして、企業誘致や企業の増設に取り組んでいて、平成13年から現在まで大体77社の企業さんに新設や増設というかたちで対応していただきました。その結果として設備投資の金額が大体660億円、雇用としては大体3千人くらいの雇用を達成している状況です。そういった中で北条地区ですが、三浦工業さんが今、設備投資をかなりやっていますし、三浦工業さんのとなりには旧日東電工のニトムズさん、最近では三栄プラスチック工業所さんがあります。例えばニトムズさんでいうと、よく皆さんがお使いになるコロコロなどをつくったり、スポーツ選手が巻いているテーピングなど皆さんの日常生活に使われているものをつくっています。特にそういったものは需要が伸びていて、これがなかなか真似できない技術なので、ニトムズさんも今後設備投資が活発になるだろうと思います。北条ではありませんが、城北地域でいうと井関農機さんがかなり設備投資を充実させていますので、そういった中で雇用に結び付ければいいなと思います。松山市は定期的にそういった企業さんとお話をさせてもらう機会があって、代表的な本社機能があるところは、例えば関連会社をこちらに誘致できないかなど、県と連携しながら進めていくところですので、ご要望に応えられるように今後も頑張っていきたいと思います。

【市長】 私も北条の河野地区に住んでいました。父親が県職員だったので、小学校卒業までは清水小学校近くの官舎で過ごしました。中学校3年間は父親が伊予三島に転勤になりましたので、伊予三島で過ごしました。高校の3年間は北条の実家から松山の高校に通いました。大学だけ岡山で過ごして、大学を卒業して南海放送へ22歳のときに入って、結婚するまで6年間は北条から通いました。前の会社の性質上、大きな災害が起こっても自転車や歩いて駆けつけられるところに住んでほしいという雰囲気がありましたので、比較的会社に近いところに居を構えました。たまに北条に帰るとほっとします。まちなかはまちなかでいいかもしれませんが、北条は北条でいいところがあります。愛媛マラソンも今まで3回走っていますが、高縄山から立岩のほうへ降りてくると高縄山もきれいですし、鹿島に向けて降りてくると、本当にここはきれいなところだなと思います。海もきれいです。私は大学生のときに岡山で過ごしましたが、同じ瀬戸内だから似ていると思うかもしれませんが、岡山市内から車やバイクで1時間走らないと泳げる海岸には行けないんですよ。かつ岡山の海岸は、北条のようにきれいな砂浜ではなく、どちらかという足に当たると痛い砂浜です。北条の高縄山や海、そして海に落ちる夕日、カエルが鳴いているのにほっとすることもあります。地方都市に長く住んでいると、うちのまちなには何もないと言う方がいらっしゃいますが、実は宝物はいっぱいあるんです。東京や大阪ほど派手ではないけれども、宝物はいっぱいあります。土手内の海岸に最近若い人が増えていて、私の友人も北条の環境が好きだといって北条に移り住んでいる方もいます。ですので、ぜひとも皆さんには地元で愛着や誇りを持っていただきたいです。北条の人たちが北条に愛着や誇りを持っていただかなかったら、誰がほめてくれるんですか。今治の人がほめてくれますか、松山市内の人がほめてくれるのでしょうか。やっぱり北条の人が地元で愛着や誇りを持っていただくことが大事なんです。そこが大もとじゃないかなと思います。もちろん企業誘致も頑張ります。昔は旅行で人気があるのは安いところ、近いところ、旅行の日程が短いところという「安・近・短」という言葉がありましたが、松山市は企業誘致するとき「安・近・マン」と言っています。安は安心・安全のまち、災害が少ないまち、物価が安いまちです。全国的にみても松山の物価は安いんです。もちろん北条も入っています。近は空港と市内中心部が近いということです。よその市だと温泉は市内から1時間ぐらいかかるかもしれないけれども、中心部からたった15分ぐらいで道後温泉まで行けます。この近くには権現温泉もあり、北条も温浴施設がありますね。温泉も近く、空港と市内中心部が近いということです。そして、マンはマンパワーです。

四国八十八カ所のお遍路の文化で培われた、頑張っている人に優しくするというお接待の文化があるということで「安・近・マン」というのを使わせていただいています。地元の人が地元を誇りを持つのが一番大事なことはないかと思えます。今、人口減少と聞いていますが、松山市では高校を卒業するまでが1つの勝負ではないかと思っています。高校を卒業するまでに自分の住んでいるまちが好きだと思ってもらって、大学とか働きに出ていかれても、やっぱり将来は帰ってきてほしいです。そう考えたら18歳までに地元を好きだと思ってもらうために、さまざまな取り組みをしているところです。日常生活色んなことがあるかと思えますけれども、地元を愛着や誇りを持っていただくこと、つつむというつむいてしまうけれども、うつむいたのでは何も変わらないので、前向きな思考から色んなものが生まれてくると思えますので、これからも行政としてやるべきことをしっかりとやっていきますけれども、ぜひとも地元を愛着や誇りを持っていただきたいと思えます。北条、松山、中島にはそれぞれ宝があります。

【男性】 市長が就任以来、常に北条に目を向けていただいて、ありがとうございます。行政に目を向けていただいている間に、地元の者が後ろ向きであってはいけないと、常に積極的に創意と情熱を持って地域づくりをしています。そして、地域の者が汗をかかないと、ひょっとしたら市長は北条に目を向けてくれなくなるような、そんなことにならないようにしっかり頑張っているところです。市長は、地域づくりには、よそ者、若者、ばか者が必要であるとよく言われていますけれども、私たちはまちづくりばかはいらるんですが、よそ者と若者が非常に少ないです。私たちも6年前から、聖カタリナ大学の学生を取り入れようとして、苦勞してやっと聖カタリナ大学に目を向けていただいているという状況です。したがって、これからはもっと北条にも若者に関わってもらえるのではないかなと思えます。そこで、先ほど市長が宝はいっぱいあると言いましたが、市長の発案で「たからみがき」というのをやったんです。鹿島に句碑を立てたり、花へんろに看板を建てたり。実は、そういう行政財産の使用許可を毎年申請しなければならないんです。鹿島の看板は、2回目のタウンミーティングでお願いして、北条地区のまちづくり協議会に使わせていただくようになったんですけれども、それ以外の色んな行政財産の申請が1年に1回あるので、それを5年に1回か、または自動継続にはならないでしょうか。行政の改革も、そして事務量の削減も考えていただければと思えます。よろしくお願ひします。

【市長】 まず、行政財産には例えばどのようなものがあるか言っていた

だくとほかの方がわかりやすくなるので、具体的な事例があれば。

【市民部長】 一般的に、行政で使っている学校用地もそうです。

【地域経済課長】 広く行政財産というのは、公用財産と公共用財産があり、例えば我々が使っている市役所などが公用財産であって、観光施設の鹿島の港や学校や公園などが公共用財産になります。

【市民部長】 所管は理財部ですが、私からお答えさせていただきます。自治法で行政財産は行政目的で使用する財産であって、目的外の使用はあくまでも例外的なものであって、その期間はなるべく短くするべきであるという見解があり、考え方としては1年までということを示されています。それを受けて、松山市では松山市財務会計規則で1年を超えることができないと規定しているところです。そのような法の考え方がありますので、許可期間は1年以内として、必要に応じて更新をしていただく方法をとっています。国の考えが1年ということがありますので、これを市として5年にとというのはなかなか難しいのかもしれませんが、今お話のありました自動継続というのは可能性があるかもしれないと思いましたので、持ち帰りまして専門の部署で検討して回答をさせていただきたいと思います。

【市長】 自動継続ということはやり方としてあるかもしれないと思いました。国の考え方がそうなっているということですが、今、松山市役所には3,300人の職員がいますが、市民の皆さんの求めるものは昔に比べると高度化・複雑化していますし多様化しています。そういう中で、限られた人数でしているものですから、事務量を減らせるものは減らしていきたいと市長として思っています。やはり税金でさせてもらっているわけですから、すごく平たくわかりやすく言いますと、職員数が4千人、5千人と増えれば、その分だけ余計に税金が要ります。これから少子高齢化ですから働いてお金を納めてくれる人の数は少なくなり、私もそうなりますけれども、お世話になる人の数は増えていくわけです。限られたお財布の中で、物事をやっていかなければならないわけですが、事務量をどうしていくかということも考えていかななくてはいけないと思っていますので、私の立場からすると自動更新をすることができれば、事務量を減らすことができるなと思ったので、帰って担当と話をしてみたいと思います。できるだけ頑張ってみたいと思いますけれども、ぎりぎりで頑張れなかったときはすみません。国の規定があるというのがハードルになるかもしれません。

【男性】 まちづくりと公民館のお世話をさせてもらっています。日ごろ思っていることをお願いしたいと思います。今、私どもの町では、市から都市景観やまちづくりの課に来ていただいて、駅前の花壇づくりやロータ

リーの花づくりなどいろいろやっています。この北条も学園都市であることはよくご存知のとおり、北条北中学校、聖カタリナ大学、北条高校、北条小学校があり、それが一定の地区に集まっています。その道の中心が、北中の西側のバイパスから鹿島に見える道路です。これは、当初道路を開設するとき、どうも街路樹を植えようということになっていたらしいのですが、限られた人の反対にあって成就しなかったと聞いています。それで、今になってどうしても何か物足りないなと思いながら、地元の区長さんにいろいろ努力していただきまして、反対していた方も大体おさまったので、これからだったら何とか成就しそうだということになったのですが、当初道路の名前も付けてほしいということだったんですけれども、名前を公募するとしても、そこに街路樹を植えたかどうかと思います。かなり立派な歩道があります。以前に市長さんたちが来られて統一練りをやった道路です。これからいろいろご相談するんですが、どういう手順で相談したらいいのかをお聞きしたいと思います。

【都市・交通計画課長】 まずは、町の総意を取りまとめていただきまして、道路管理課または道路建設課に相談をしていただければと思います。近ごろ、新設の道路の場合は反対者が多く、例えば落ち葉が落ちて掃除をするのが嫌だから街路樹を植えないでというところが多くて、緑のない道路が増えています。1度できてしまうと、相当な力が要るようになります。すぐに動く確約はできませんが、何らかやる方法はあると思いますので、まずは町の皆さんの総意を持っていただいて、どういう樹々がいいのかとか、例えば木の幅がすぐに大きくなるものであると維持管理側も何回も剪定に行かなければならなくなりますし、地元がそれでいいという場合もありますので、その辺をよく相談させていただいてしていきたいと思います。あと、道に名前を付けるというマイロード制度というのがありますが、それは地元の方にある程度日常の管理をしていただき、年に何回か道路の掃除をして貢献していただくことでできるマイロード制度もありますので、詳しくは私のほうに相談いただいたらと思います。

【市長】 ぱっと浮かぶもので、マイロードで名前の付いた通りとか何かいえることはありますか。古川の久兵衛通りもそうですかね。

【都市・交通計画課長】 古川はなみずき通りや愛媛大学と松山大学の間のカレッジロードなどもあります。

【市長】 皆さんで道路の名前を付けられるということです。

【都市・交通計画課長】 最近は企業に売ってネーミングライツとして収入源にしている都市もありますけれども、松山市の場合はボランティアで無料になっていますので使っていただけたらと思います。

【市長】 北条立岩線とかいう名前もいいですが、地元の方々が愛着を持った名前もできようかと思imasので、ある程度お世話をしていただいて、鹿島を臨める道路ですからそういう名前を付けたりということもできます。実は、花のまちづくりもやり方としてあります。「わしゃ、花が嫌いでお」という人はあまりいません。結構皆さんが好きなものですから、花でまちづくりをされているところがあります。私も、これから高齢化が進む中で重労働を伴うものでしたらなかなかおすすめてできませんが、比較的軽作業ですから花のまちづくりはいいんじゃないかと思imas。前の仕事で20年間、各地のいいまちづくりを見させていただきましたが、ちょうど今日の愛媛新聞さんに浅海のコスモスが出ていて、お客さんが来られていました。また、最近のテレビニュースで見ましたが、宇和島市三間町のコスモスもお客さんが来られています。きれいな花を咲かせると色んなところからお客さんがお越しになるので、花のまちづくりもやり方ひとつでできるのではないかなと思imas。私の私案ですが、私は北条7地区7ツ星と言っていて、この7つの星が輝いてほしいと思imas。浅海は浅海で、難波は難波で、正岡は正岡で、それぞれにいいところがあるので、それぞれに足を運んでもらいたいと思imas。鹿島や駅前通りでイベントがありますが、例えば浅海きれいなコスモスの写真を通りのどこかに展示して、いつが見ごろか書くと「ああ、今度は浅海の方に行ってみよか」ということになろうかと思imas。それぞれ7地区で、こういうよさがあるということをお駅前や鹿島でのイベントなど、通りのどこかのスペースで、そういう写真1つで「見ごろはここです」と言ってもらっただけでも情報発信になるので、そうやって北条の色んなところにお客様が広がってってくれればと思imas。浅海に行ったら、ちょうど北条も通過することになりますから、やはり人に足を運んでもらうことが大事じゃないかと思imas。

【男性】 市長さんからお花の話題をいただきましたので、ちょっと要望とお願いしたいことがあります。公園緑地課等でボランティア花壇やプランターの事業があつて、予算的なこともあるし広く多くという意味からでしょうか、種子を配布しています。ですが、種から育てて、それをポットにあげて花壇やプランターに入れるとしても、なかなか私がしましようという人が少ないです。私の住んでいる地区でも、やはり病気が出ることもあるし、天候のこともあるし、責任感からでしょうか、専門のお百姓でもなかなか手を挙げて私がしますという人がいないんです。種子という考え方もあると思imasが、もうちょっと柔軟に考えていただいて、苗物は市

全体で買えば安く買える場合もあるかと思うので、検討していただければと思います。よろしくをお願いします。

【都市・交通計画課長】 種子だけではなくて苗ということですね。その辺については持ち帰らせてもらって担当課とよく話してみたいと思います。できない理由があるのか、ないのか。今までやっていないということは、何か検討をしたのか、検討していないのかということを含めてお答えさせていただいたらと思います。緑のまちづくり奨励金制度の話在先ほどされていましたが、その制度をご紹介します。ブロック塀から生垣に改造した場合に市から補助金が出たり、庭木を植えるときに費用の半額、上限2万円を庭木で支給するとか、地域のグループなどが花壇などをつくる場合にも花壇の設置費用の半額、上限10万円の補助があります。パンフレットが必要な方がいらっしゃいましたら、私どもに言っていただければ支所に送ることができますし、グループで郵送してほしいということであれば郵送もできますので、お気軽にお声がけいただいたらと思います。

【市長】 補助金制度や支援制度があります。先ほど申し上げた半額で上限10万円といったら、20万円の工事をされたら10万円までは出ますよということですから、皆さん10万円払わなくても10万円は市から出るというかたちの補助金ですから、遠慮なく活用していただいたらと思います。どのケースでも上限が10万円ですかね。

【都市・交通計画課長】 庭木の場合には上限が2万円で、生垣の場合は上限6万円で1mあたり3千円です。

【市長】 そういう制度もありますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 北条社会福祉協議会とまちづくり協議会に参加しています。北条辻の河川の横にあるガードレールですが、北条フェニックスのところから元宮本建設のところまでの200mほどのところが2～3カ所腐ってぶら下がっています。先日、支所長さんに頼んで問い合わせてもらったら、道路管理課に上がっていますと言われたんですが、一向に工事が始まる気配もないです。それから、その道路の入り口の中心に自動車などが入れないように丸いポールが立っていますが、昔は色を塗ってくれていたんですけど、今は色が剥げてしまって、夜になると歩く人が結構いて散歩する人から危ないから色を塗ってくれないかと要望が出ていますので、よろしくをお願いします。

【都市・交通計画課長】 担当課には相談いただいているということですので、進捗状況を確認してお返事させていただきたいと思います。

【市長】 今、市役所の中でよく言っているのが、非日常と日常ということを行っています。我々は市役所の中で仕事をするのが日常ですが、皆さんが市役所に相談することは非日常なんですね。ある程度、意を決して言われているところがあるでしょうから、市民の皆さんに寄り添いなさいと言って、早く返事することを言っています。市役所に意を決して言っただいて、「あれどうなっとるかな」と翌日ぐらいから気になると思うのが普通の市民の皆さんの感覚だと思います。だからできるだけ「どうなります。今、検討しているところです。どれぐらいかかります。」ということを我々は言わないといけないと思いますので、これは徹底していきなさいと思います。先ほどの苗の件ですが、種から育てるのも1つの方法だと思いますし、値段がぐっと上がるのかもしれませんが、苗物を買ってきて大きくするというのもまた1つの方法だと思いますので、できるだけ取り組みやすいように考えてみたいと思います。

【男性】 今、新しくできた高架の側道をまちづくり協議会で管理させてもらっています。その側道には花の苗をいただいて毎年植えています。そういうやり方があると思うので、ほかの地区もできると思います。

【男性】 付け加えさせていただきますと、実はマイロードになって6年になりますが、本当は先ほど言われたように名前を付けてもいい時期なんですけれど、今まで北条地区に盛り上がりがなかったものですから名前の募集もしていませんでした。マイロードには、道路管理課から苗をくれ、公園緑地課は苗は無理で種ではないかなと思います。そのあたりのつながりもあろうかと思しますので、ぜひ横の調整をしていただきたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。いいことを教えていただきました。先ほど学園都市の話がありましたが、これも宝なのでご紹介をさせていただきます。前の仕事で20年間南海放送のアナウンサーとして、各地でいまちづくりを見せていただきました。1回目に訪ねたときは学校があったんだけど、何年かして訪ねると学校が閉校になってしまっているところがあります。だいたいまちが寂しくなったなあと感じました。やはり学校はまちが元気になるよりどころでもあります。そういった中で北条地区には北条小学校や北条高校や聖カタリナ大学さんがあります。ほかのまちを考えてみていただくとわかりますが、愛媛県には11市、9町の全20市町に大学があるわけではありませんよね。大学は研究機関ですから何か連携して研究してもらうこともできますし、若い男子学生さん女子学生さんが必ずいることにもなります。全国を見ると、昔は高校があったけれどもなくなったというところもありますが、北条地区には大学もあるし高校

もあるし中学校も小学校もあります。これはものすごいことだと思いませんか。そういう宝があるわけですよ。北条のイベントで聖カタリナ大学の方々が入ってくれるようになりましたが、これは大きなことですよ。皆さん考えてみてください。留学生は国費留学と私費留学と2つに分かれるとすると、国費留学は国が認めた立派な人ということです。私費留学ということは、たぶんお金持ちなんだろうなと思います。自分の子どもを海外に留学させてとなるとお金も要りますよね。国費留学は国に帰ると立派な役人にでもなるのかな、ひょっとしたら政治家になるのかなと考えられます。私費留学の方は帰ったら民間の経済人としてバリバリやるのかと思います。そういった方々が北条で過ごして、日本での印象イコール北条の印象なんですよ。大きいですよ。ですからそういう宝があるというのも皆さんに感じていただけたらと思います。

【男性】 まちづくり協議会のお世話をしています。よろしくお願ひします。今朝のことですが、事務室に来られた方が空き地と空き家対策で困っているというお話がありました。全国的な問題で非常に難しいと思いますが、これに対してご意見をお願いしたいと思います。それから、先ほど区長さんからお話がありましたように、まちづくりへの参加の条件としては生活基盤が一番大事だと思いますが、私の息子たちを見ますと今の若い人は精神的な余裕がないんじゃないかと思いますが、その辺を行政としてどうお考えか教えていただけたらと思います。

【都市・交通計画課長】 空き地については今のところ具体的な対策はないですが、空き家対策については、どれぐらいの件数があるかという外見調査を去年しています。国の法律が変わり、放っておいたら著しく周りに損壊を与える、例えば隣の家に倒れてくるとか害虫が湧いて衛生上の問題が出てくるとか、そういうものを国の言い方で特定空家といいます。松山市では特定空家の基準をつくっていくことにしていて、すでに検討に入っている段階です。特定空家のことが決まるまで動かないのかといたらそうではなくて、今は現状でできる対策として、例えば道路上や隣の方の家に倒れそうだという場合は、現状を見に行ったりして持ち主の方にお話をし管理していただくなどの対策をしています。より強くできる特定空家を指定できる制度設計を市役所で行っている最中です。急いでいますが年内はかかると思っています。できたら広報等で周知されると思いますので、よろしくお願ひします。

【市長】 皆さんにできるだけわかりやすく空き家のことについてお話をさせていただきますが、北条の安居島に行ったときに空き家のことを切実

に感じました。かなり傾いていて、これは危ないんじゃないかなというのを安居島で見ましたので、より一層踏み込もうということで市役所の中で指示を出して考えていましたら、国がやるということになりました。国のほうが強い権限を持ってできますから、国の枠組みの中でする流れで今進んでいます。空き家の難しさは、個人の建物を税金で直しますということになると、Aさんのお家を公のお金で何で直すんですかという話になるんですよね。じゃあBさんのお家も直してやということになりますので、その線引きをどうするのかということが空き家対策の難しいところです。確かに放っておいたら周りにご迷惑をかけるんじゃないか、でも公のお金でどう直すかが難しいところで、国もその難しさを感じているので国もルール化しようという中で松山市もやっているところです。

【市民部長】 地域活動に参加するには財政基盤が必要で余裕がないというお尋ねの件ですけれども、地域活動ができる職場環境をとという点からお答えします。確かに地域活動は自分たちの生活に加えてということになりますので、それに参加しようとする職場の理解とか、時間がどれぐらいとれるかということが重要になってくると思います。最近では企業でも社会的貢献ということで、地域活動に参画することも増えてきています。また、一方では国が働き方改革ということで、長時間労働を抑制しようという動きもありますし、最近皆さんよく耳にされると思いますが、ワークライフバランスとって一般的には仕事と生活の調和と訳されていますが、仕事をきちんとしながら家庭や地域生活においても多様な生き方が選択できるようにということで、各企業にそういったワークライフバランスの考え方が徐々に浸透してきています。松山市は、市長の提案で11月2日に「松山イクボス合同宣言」をするようにしています。イクボスというのは職場で共に働く部下・スタッフなどのワークライフバランスを考えて、仕事と生活の両立をしやすい環境を整備して組織の業績も出しつつ、自らも仕事と私生活を営むことができる上司のことを指します。イクボス宣言は、こういったイクボスの趣旨を踏まえた宣言書をつくり、経営者や管理職が証明して対外的に公表をしようというもので、松山市から各企業に声がけして116の団体から賛同をいただき、合同で宣言をするようにしています。そういった取り組みを松山市としても進めていまして、そういう意識が浸透していくことによって地域活動がしやすい環境も整ってくるのではないかと考えています。徐々にということになるかもわかりませんが、進んでいくように思います。

【市長】 イクボス宣言のことですが、実は地方創生会議の女性メンバーの方から、会議のあとに「市長、イクボス宣言したらどうですか」と言わ

れたんです。私が育児に理解のあるボスになりますよと宣言をすることも考えましたが、市内にある企業の経営者の方が「イクボス宣言します」と一人だったら言いにくくても、みんなで合同宣言するとしやすのかなと思います、松山市役所が各企業さんに「イクボスになりませんか」と声をかけたところ、100社を超えるところが一緒に宣言してもらえることになりました。私が宣言するのもいいですが、各企業さんが100社集まると、市全体で意識が100変わるわけです。そうやって、市が全体で育児にやさしい環境になるというのが大事なことだと思ったので、合同で宣言させていただくことにしました。このように市でできることは限りがありますから、連携するといろいろ変わってくるところがあるので、こういうところを大事に、また生活基盤がしっかりないと地域活動にも参加できないということもよくわかりますので、そういうところを企業さんたちの力をいただきながら雰囲気を変えていきたいと思っています。

【女性】 要望でもないのですが、うちの家は小学校も大学も中学校も通り道のとてもいいところにあります。大学生が朝になったら通学していて、色んな服装をしているのを見るのも楽しいですが、ただ1つだけ、4列縦隊のような感じで自転車が来ても全然よけないところは少しダメだなと思うんです。それから、小学生にこちらがおはようございますと声を朝かけると、返事を返してくれる子どももいれば、家であまり知らない人に声をかけたりしたらいかんよと言われていたのかなと思うような何も言わない子もいるんですが、この子たちがいなかったら北条は相当さみしいんだらうなと思っていつも見えています。

【市長】 4列というのはわかりますね。そういう世代だなと思いますね。この間、聖カタリナ大学さんが来られたので、私から言っておきます。横浜のほうだったと思いますが、通学のときがうるさいのでこの道路を通らないでくれという話が出ているのを聞いたことがあります、ほほえましく見ていただいているのは、ありがたいなと思います。結構、車や自転車が通るところですか。

【女性】 北条小学校の南門の前の通りで、聖カタリナ大学にまっすぐ行く通りです。

【市長】 この道を4列はダメですね。地元の方も見られていますよと言っておきます。それとあいさつのことは、こう考えていただいたらありがたいなと思うんです。ある方から言われたんですが、田舎に行くと田舎の子は自分からおはようございますと言ってくれます。でも、都会に行くと、朝すれ違ってもあいさつしたらいかんのかなという感じで、あいさつをし

てくれない子が増えていると言われました。学校現場に聞きましたら、確かに犯罪の例として声を交わすことをきっかけにして巧みに子どもを誘拐するとか、さわることにつなげてくる人も実際にいるそうです。あいさつが大事だとわかっているのは、親世代か子ども世代かといえば我々親世代ですから、あいさつの大事さをわかっているほうから、おはようと声をかけてあげたらどうでしょうか。何回も顔を合わせていると、この人こういう人だなと安心感も出て、子どもからあいさつもできるかもしれません。初めて会う人だったら子どももはっと思うかもしれませんので、何回か交わしていると、それは変わってくることもあろうかと思えます。実際に不審者や犯罪のこともありますので、号令的にするのは難しいことあると思えますが、あいさつの大事さをわかっている大人から子どもに声をかけていただくとうろしいかなと思えます。

【男性】 よそ者・若者でございます。私が育ったのは松山市小坂町で、この北条には結婚してやってきました。今、北条について個人で思っていることは、古い良い町ですが、限界集落ではないけれど、とてもまちが古くなっているところがあります。独居老人の方が増え、子育て世代も町にまばらになっています。実際にどういうことが起きるかという、私自身も小学校の子どもを持っているPTAとして、なかなか相談する相手がなくなってきました。地域相談センターが市や行政にたくさんありますが、コミュニティの中で相談する地区の大きさというものが北条ではしんどくなってきているのではないかなと思っています。北条は区長制度がまだ残っていますので、松山市内の大きな町とは違うのかもしれないですが、どれくらいの地域性や、若者は町にどれくらいないと活性化できないよ、町として成り立たないよ、どれくらいの町だったら今後も運営できるとお考えになっているのかお聞かせいただいたらと思えます。

【市長】 若さというのは心の問題だと思うんですね。40才の老人もいれば80才の若者もいます。この北条地区でつながりがなんて言っていたら、ほかの四国のもっと小さいまちや村を考えたら、なんて贅沢なという話になります。松山市の高齢化率は25%で、北条地区になるともう少し高いかもしれませんが、まだまだ80才の若者もいっぱいいらっしゃると思います。考えることや動くことをやめちゃうと老いると思いますので、どんどん町のために動いていただけたらと思えますし、やっぱり動いてつながるほうが面白いと思えます。今日は金曜日の朝だったので、光洋台の駅前で駅巡り街頭演説をさせていただきました。今日言わせていただいたのは、秋のシーズンですから地区では文化祭や運動会や敬老会があります

が、そういう機会に顔は見たことがあるけれども、この人とは話したことないなと思う方がいると思いますので、ぜひとも話し合ってみてください、ぜひともつながってくださいということを言っています。つながると防犯でも防災でもよくなり、大きな災害が起こったときに避難してきたけど、近所の話をしていたおじいちゃんやおばあちゃんの顔が見えない、どうしているんだろうかと思うだけで防災力が上がります。子育てもつながると助かります。抱えるように子育てをするとしんどいですが、ちょっとでも話を聞いてもらおうと楽になります。介護も抱えるように介護をすればいいですが、周りの人がちょっと話してくれると楽になります。文化祭、敬老会、運動会など地区がつながる機会に各地区でつながっていただいて、大いに動いていただいたらと思います。動いたら汗をかくかもしれませんが、心地よい汗もありますから、つながると楽しみは倍になるし、つらさは半分になるかもしれません。つながっていただくと色んないいことがあると思いますので、皆さんでつながっていただいたらと思います。

【男性】 地域おこし協力隊の状況がわかりましたら、教えていただきたいと思います。

【市民参画まちづくり課長】 市民参画まちづくり課の高田と申します。地域おこし協力隊は今年度から松山市が募集をしまして、この近くでは浅海地区に派遣をさせていただいています。今、地域のいろいろな会に顔出しをしたりして、まず地区を知ることから始めているところです。浅海出張所の近所にまちづくり協議会の事務所があり、その中にデスクを置いて、皆さんとの情報共有などを行ったり、インターネットなどを通じた情報発信に一生懸命頑張っています。そのほかにも五明地区でもまちづくり協議会と一緒に活躍している地域おこし協力隊もいますので、そういった地区間の情報共有や交流なども進めていて、これからというところですが、松山市としても地域おこし協力隊を通じた支援を各地区にしていきたいと思っています。まだ地に着いたばかりで大きな成果はありませんけれども、ぜひ期待しながら見守っていただけたらと思います。

【市長】 今日、当初は手が挙がらなかったもので、どうなるのかなと思っていましたけれども、手を挙げていただいて、おかげさまで8時半まで時間がきました。私からお願いとしていろいろと申し上げたかもしれませんが、「そう言うても、市長、現実は大変なんで」というところはあろうかと思えますけれども、ぜひとも市役所と疎遠にならないで、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなきゃいけないと思っていますので、「どうせ市役所

に言うても変わらんのよ」ではなくて、遠慮なく市役所に言っていただきたらと思います。今日そうであったように、「こういうことはできないんですけれども、こういうことだったらできますよ」という情報をお伝えすることもできます。例えば皆さん、どこが市道で、どこが国道で、どこが県道で、どこが農道で、どこが私道かわからないですよね。我々に言っていただきたら県につなぐこともできますし、国に取り次ぐこともできます。今日、言ってくださいと言いましたけれども、皆さんの声に寄り添ってしっかりと皆さんの声に対応していくことが市役所にとって大事なことだと思いますので、遠慮なくこれからも言っていただきたらと思います。これからもどうぞよろしくお願ひします。今日は、ありがとうございました。

— 了 —